

●現場で考え、現場でつくる

高校生のころから、自分の進路を映画づくりか都市計画の道と考えていました。大きな視点から大きなものを構築していくことに興味があったのです。より大きな視点で仕事ができそうな都市計画の道を選び、建設省に入りました。その後退官し、今は大学教授となり、まちづくりの総合的なプランニング、マネジメントに携わる都市デザイナーです。

建設省時代は法律をつくることが中心でしたが、小泉内閣のときに構造改革特区に携わる新しい部署ができ、内閣官房に出向することになりました。そこで約8年、地域再生の仕事をしていただき、全国のまちづくりに関わる人たちと知り合うことができました。

それから縁あって中部大学に誘っていただきました。学生に都市計画などを教えながら、地域へ出かけてまちづくりのお手伝いをしています。大学の先生というのは、ある意味個人商店ですから、個人の判断で自由に幅広くまちづくりに関わることができます。現場で考え、現場でつくる。現場が最も創造的だと思っています。

●高齢化、産業構造の転換……地域再生のさまざまな課題

まちづくりに関しては、専門家として助言するというスタイルではなく、プランニングからマネジメントまで、私が直接、総合的に手掛けます。例えば、いま取り組んでいる春日井市の高蔵寺ニュータウンや、沖縄県の離島・北大東村のケースでも、首長からの依頼を受けて、地域再生プロジェクトの企画・運営全般に直接携われる立ち位置を選んでいます。

どちらのケースも、いまの地域が抱える課題を浮き彫りにしています。例えば高蔵寺ニュータウンは、居住者全体が一気に高齢化していきます。それに対応する将来ビジョンをつくり、対策を講じなければなりません。最初は、市の中に受け皿となる組織がなかったし、地元で活躍している人との連携もない。多世代の共生・交流などをめざす「高蔵寺リ・ニュータウン計画」を3年間かけてつくり上げる中で、組織づくりや地域のプレイヤーとの連携強化を進めてきました。これから実施に入る段階です。

北大東村の場合、人口約600人。サトウキビ産業がメインの島です。しかし実は、農業、漁業の基盤を整備する建設業で働く人の方が多いのです。基盤整備が終わると、建設業が雇用の受け皿ではなくなってしまう。いま産業構造の転換期を迎えている。だから農業、漁業、観光な

まちづくりは分野にとらわれず
互いをつなげる総合的な視点で

どが、しっかりした雇用の受け皿にならないといけない。そのために行政の縦割りや専門分野の壁を超え、農業、漁業、観光などを有効に結びつけていかなければならない。小さな自治体だからこそ、判断が早く、横の連携がとりやすい。そんな特性を活かして、すでに8年間、より高いレベルの地域づくりを目指して、様々な計画策定やプロジェクトの運営に携わっています。

●できないことはない、やっていないだけ

二つの事例を通して思うのは、世の中で進む専門分野の細分化が、まちづくりの足かせになっているということ。分野の壁を超え、互いをつなげて総合的に考える視点が重要なのですが、そのポジションをつくるのが難しくなっている。専門分野を否定しているわけではありません。私もいろんな専門の方の力を借ります。しかしタコソボの中に閉じこもってはいけない。分野にとらわれず、自治体の中に横断的な組織を立ち上げ、地域の中にメインプレイヤーを見出し、結び付けていく。そういう総合的なプランナーが必要です。

もう一つ、まちづくりに限界を設ける必要はないということを伝えたい。みんな知らず知らず自分たちで限界を設けている。やっていないだけということがどれほど多いか。他の分野にも使える発想やお金はたくさんあるのです。まちづくりに限界はないと思って、発想と行動の幅を広げていきたい。そのためにお手伝いをするのが私の仕事です。

●名古屋は、この10年勝負

私は、学生の都市デザイン能力を育成する方法の一つとして、映画づくりを導入しています。まちづくりと映画づくりには、共通する3つの能力が必要です。魅力的な空間を切り取る能力、多くのひとびとの共感を呼ぶストーリーの構築能力、そして、多様な人材を総合的にマネジメントする組織の運営能力です。映画づくりを通じて、空間、ストーリー、組織、この3つ能力の大切さに気付いてほしいと願っています。

名古屋のまちづくりの一番の課題は、リニア問題でしょうね。リニアが開通したときに通過されないまちにする。名古屋は都市としての魅力を外にアピールできていない。これを機会に都市としての集積をつくり、アピールしていくことが大事です。都心部に名古屋独自の魅力を提示できないと素通りされてしまう。デザイン博などを通じてチャレンジしてきたが、なかなか大きな成果は出ていない。開通までの約10年が、次のステップへの勝負でしょうね。



都市デザイナー
中部大学 工学部都市建設工学科
教授

服部 敦さん

はっとり あつし / 1967年、愛知県犬山市生まれ。東京大学工学部卒。建設省を経て、内閣官房で特区・地域再生を担当。退官後、中部大学の教授として都市計画等の研究・教育に取り組むかたわら、地域のまちづくりを企画、マネジメントしている。